

令和2年度 高短生調査の結果報告

高田短期大学 自己点検・評価委員会

<本調査の目的>

高田短期大学に在籍する学生に対して質問紙調査を行い、学生の学習成果や短大生活の満足度等を把握し、高田短期大学の今後の教育や学生支援を改善・向上させていくための基礎資料の蓄積を目的とする。

<調査方法>

高田短期大学の全学生を対象として実施し、調査項目は「基本属性」「1週間の活動時間」「授業内外における学習行動」「短大生活全般」「学習・生活支援」「キャリア支援」「学習環境」である。

<結果>

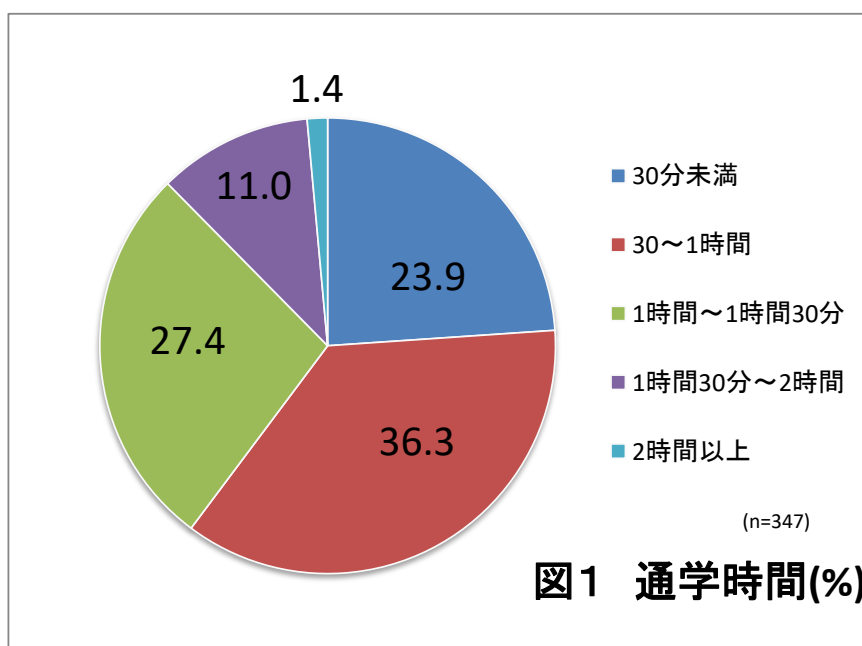
基本属性：所属学科および学年を表1・2に、通学時間を図1に示した。(回答者のみ)

表1 所属

	人数	%
子ども学科	217	67.9
キャリア育成学科オフィスワークコース	94	28.4
キャリア育成学科介護福祉コース	36	3.7
合計	347	100.0

表2 学年

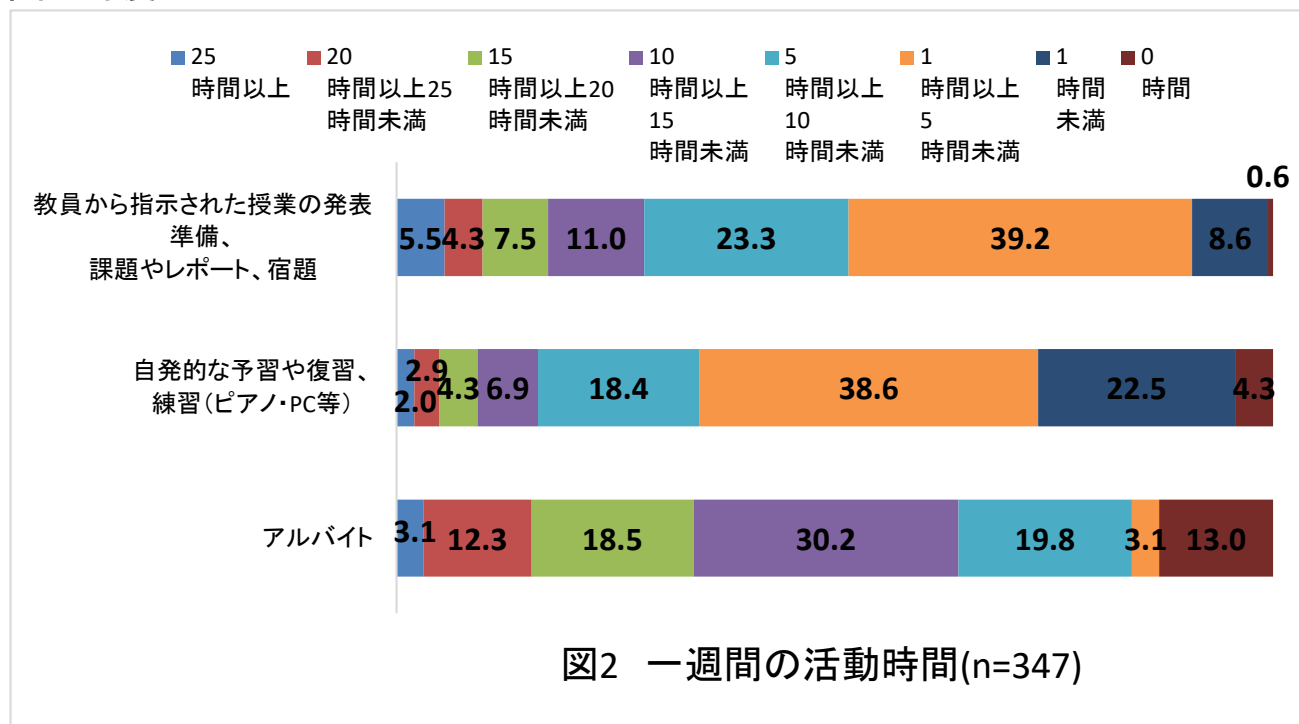
	人数	%
1年	162	46.7
2年	185	53.3
合計	347	100.0



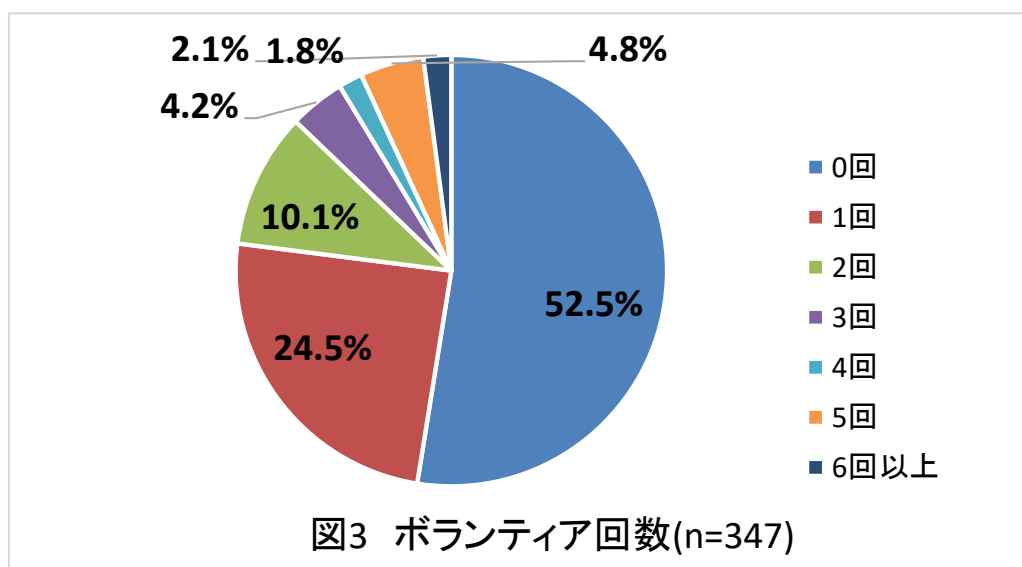
<結果>

1週間あたりの活動時間

令和2年度



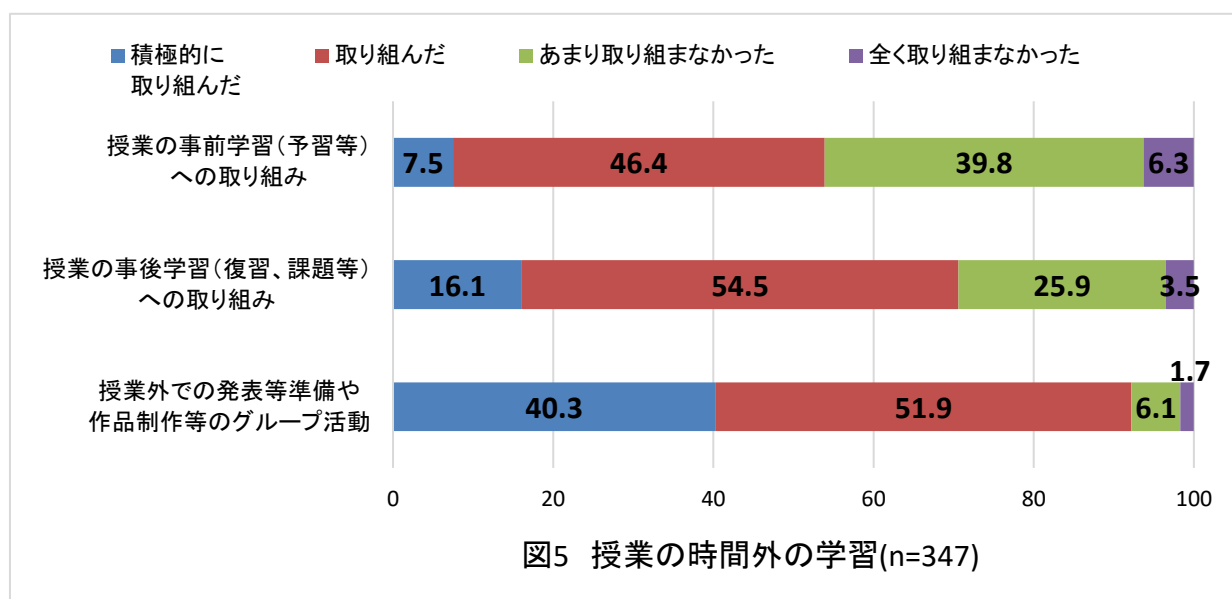
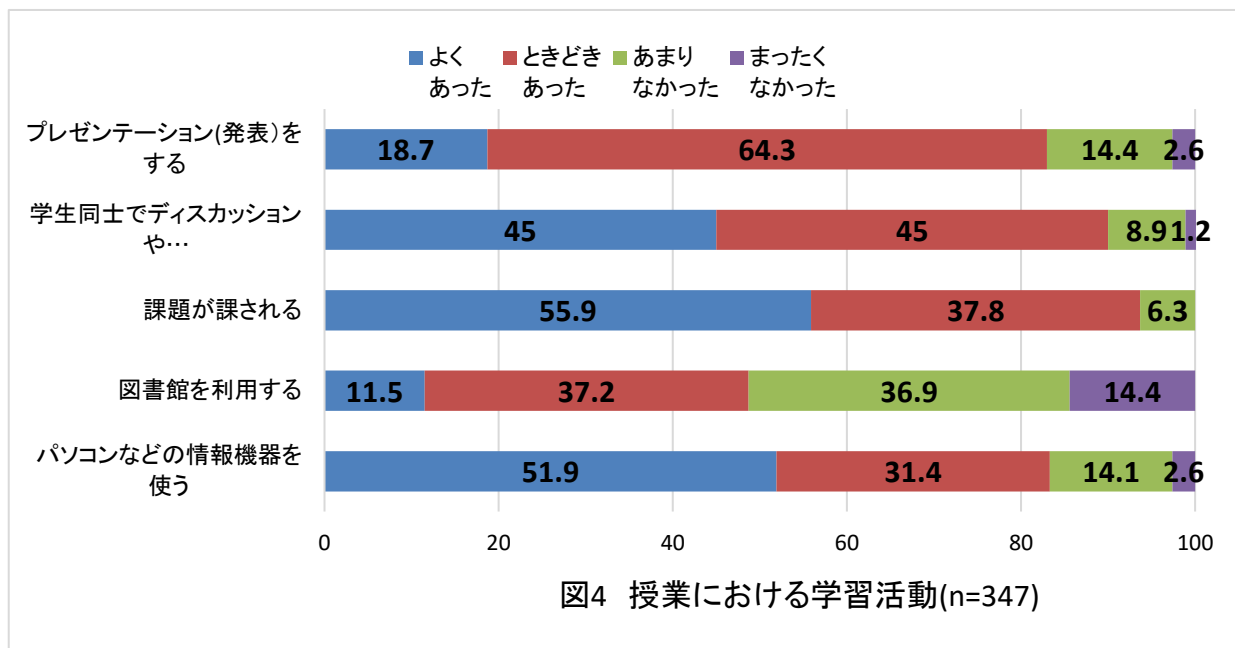
1年間のボランティアおよび地域交流活動への参加回数



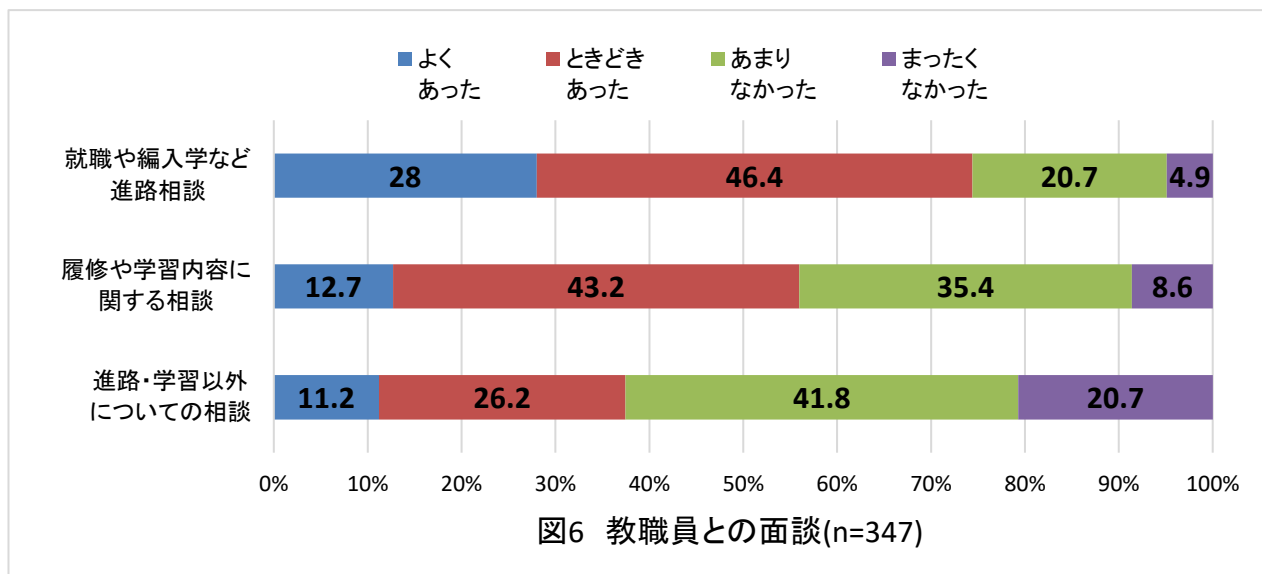
<結果>

授業内外における学習行動

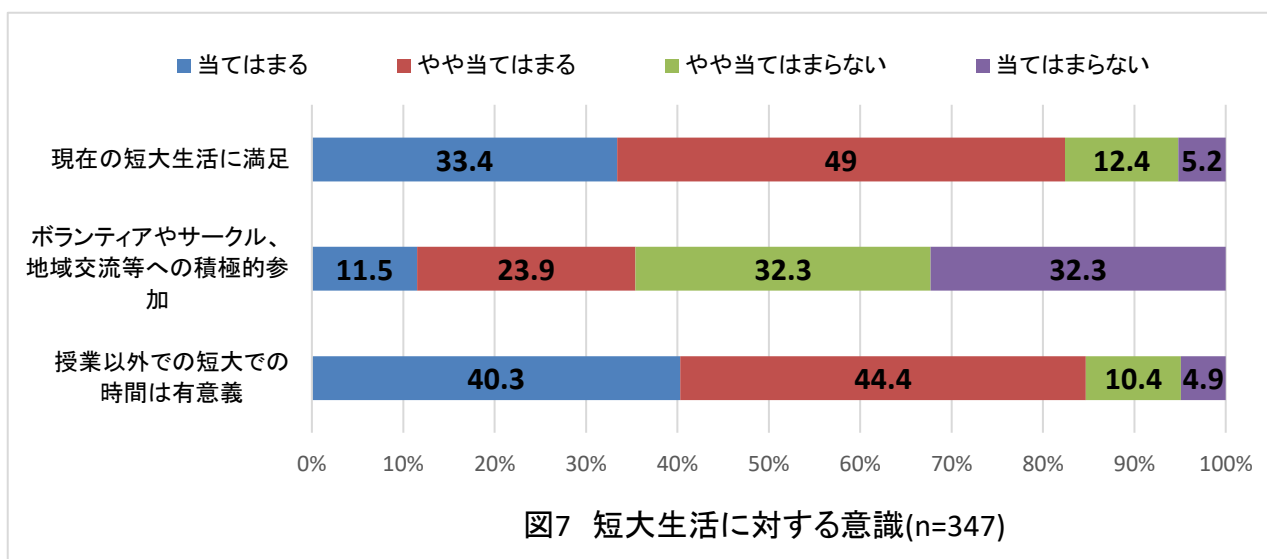
令和2年度



教職員との面談機会

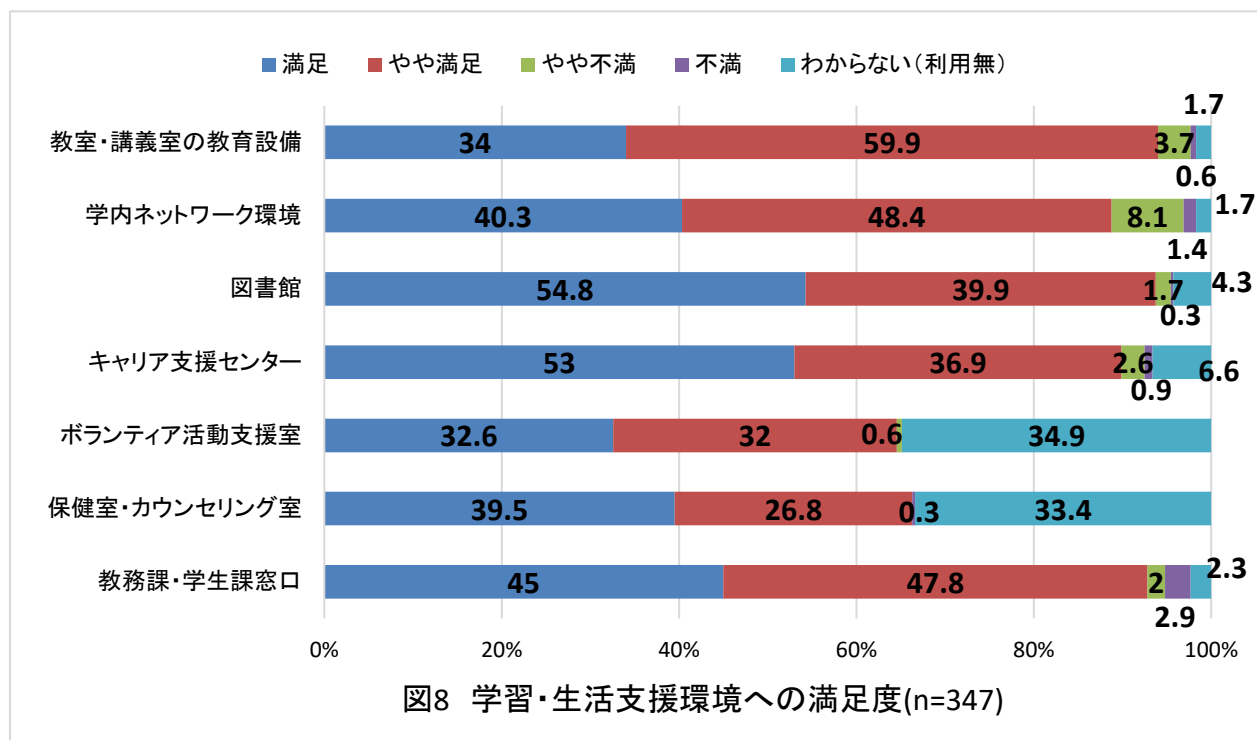


短大生活全般の意識



<結果>
令和2年度

学習・生活支援・環境



令和2年度

<p>* 分析対象 調査は429名の学生に行ったが、無回答を除いた347名のみ分析を行った。</p>
<p>* 通学時間(図1): 1時間以内通学圏内の学生が60%であった。</p>
<p>* 1週間当りの活動時間(図2): 授業外での学習時間では、課題やレポート等には1週間で5時間未満と回答する学生が48.4%で、予習・復習等自発的な学習では5時間未満が65.4%であった。アルバイト時間では、していない学生は13.0%であり、1週間15時間以上の学生が33.9%であった。</p>
<p>* ボランティア等の参加回数(図3): 1年間にボランティアや地域活動に一度も参加していない学生は52.5%であるが、3回以上参加している学生は12.9%であった。</p>
<p>* 授業内における学習行動(図4): 図書館の利用があった(よく+ときどき)の回答が48.7%であった。また、プレゼンテーションは83.0%、グループワークや課題は90%前後の高い割合であった。グループワークはよくあったと回答している学生は45.0%であった。</p>
<p>* 授業外の学習行動(図5): 事前学習と事後学習への取り組み意識は事後の方が高い傾向であった。授業内でのグループワークの機会が多い結果であったが、授業外でのグループ活動への取り組み意識も高かった</p>
<p>* 教職員との面談機会(図6): 進路相談74.4%、学習関連の相談55.9%のが学生が面談の機会をもっていた。進路・学習以外の生活等の面談は37.4%の学生があると回答していた。</p>
<p>* 短大生活に関する意識(図7): 82.4%の学生が現在の短大生活に満足しており、短大での授業以外の時間も有意義に過ごしていると回答した。</p>
<p>* 学習・生活支援及び環境(図8): 本学の学習支援や生活支援に関する調査7項目すべてが90%以上(わからない・利用無を除く)の満足度であった。</p>
<p>* まとめ ・結果のほとんどが昨年度と違いが見られなかった。 ・「アルバイトの時間」「ボランティアの参加回数」「グループワークの頻度」は昨年度より減っており、新型コロナウイルスの影響を受けていると言える。 ・今回の調査において無回答が多く、調査結果にも影響することが考えられるので、次年度は少しでも無回答数を減らす工夫をすることが必要である。</p>